

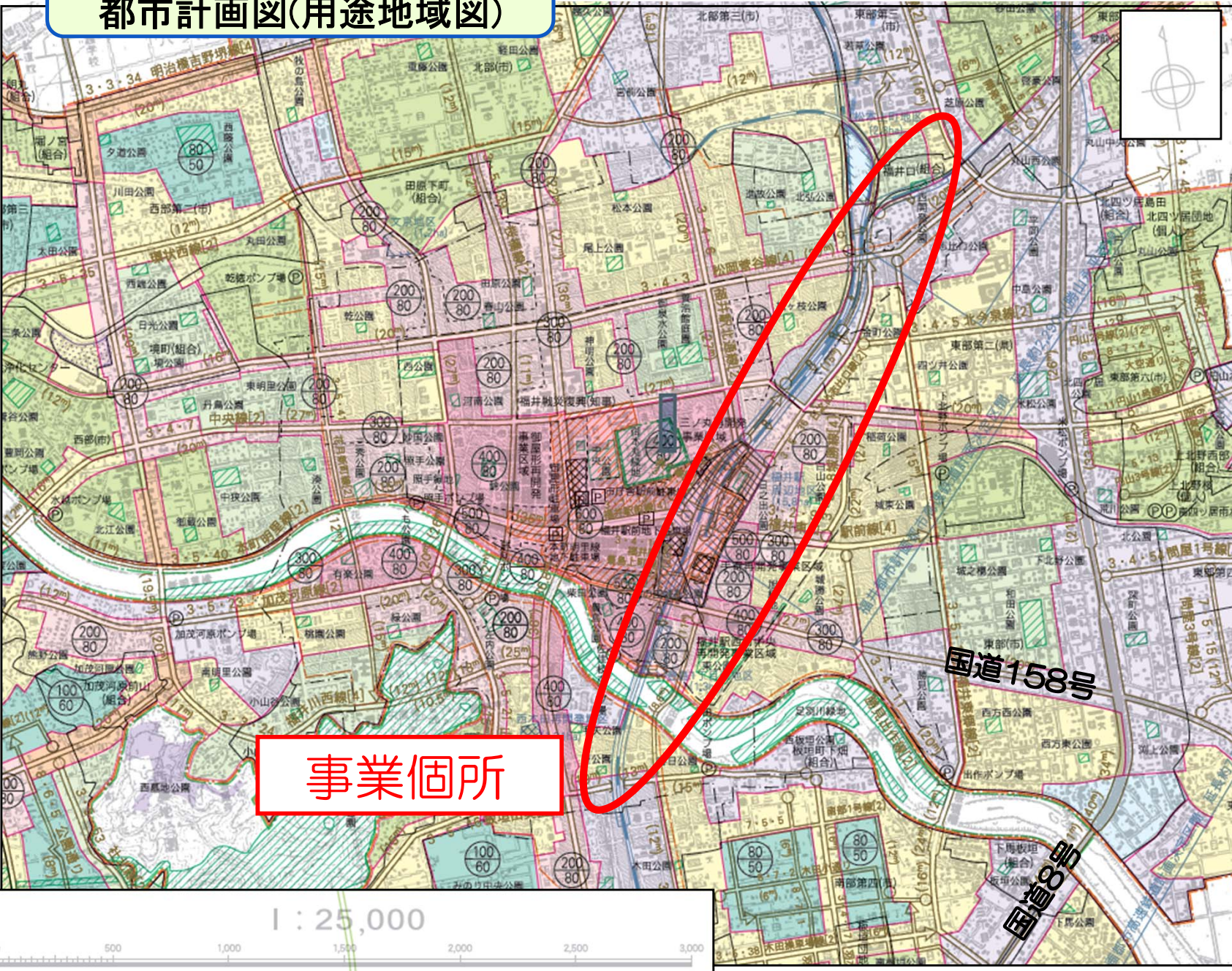
## 事業概要

応募No.	13		
事業主体	福井県	実施都市名	福井市
応募者名	福井県土木部		
ふりがな 事業名称	ふくいえき ふきん れんぞくりったいこうさじぎょう 福井駅付近連続立体交差事業		
事業概要 (400字以内)	<p>福井駅付近連続立体交差事業は、道路と鉄道の平面交差により阻害されていた福井駅周辺の交通の円滑化を図るために、福井県を事業主体とする都市計画事業として着手し、平成3年度から令和元年度までの事業期間と約686億円の事業費をかけて実施してきた。</p> <p>この事業では、福井駅を中心に、JR北陸本線の延長約3.3km区間と、えちぜん鉄道の延長約3.0km区間において鉄道を高架化することにより、5箇所の踏切廃止および関連事業とあわせて幹線・補助幹線・区画街路・歩行者専用道路など、25路線の道路を整備したものである。</p>		
事業規模	事業延長	総延長L=約6.3km (JR北陸本線:L=約3.3km、えちぜん鉄道 <small>かつやまえいへいじ</small> 勝山永平寺線:約2.3km、三国芦原線:約0.7km)	
	幅員	—	
	事業期間	平成3年度～令和元年度	
	事業費	約686億円	

事業位置図



都市計画図(用途地域図)



事業個所

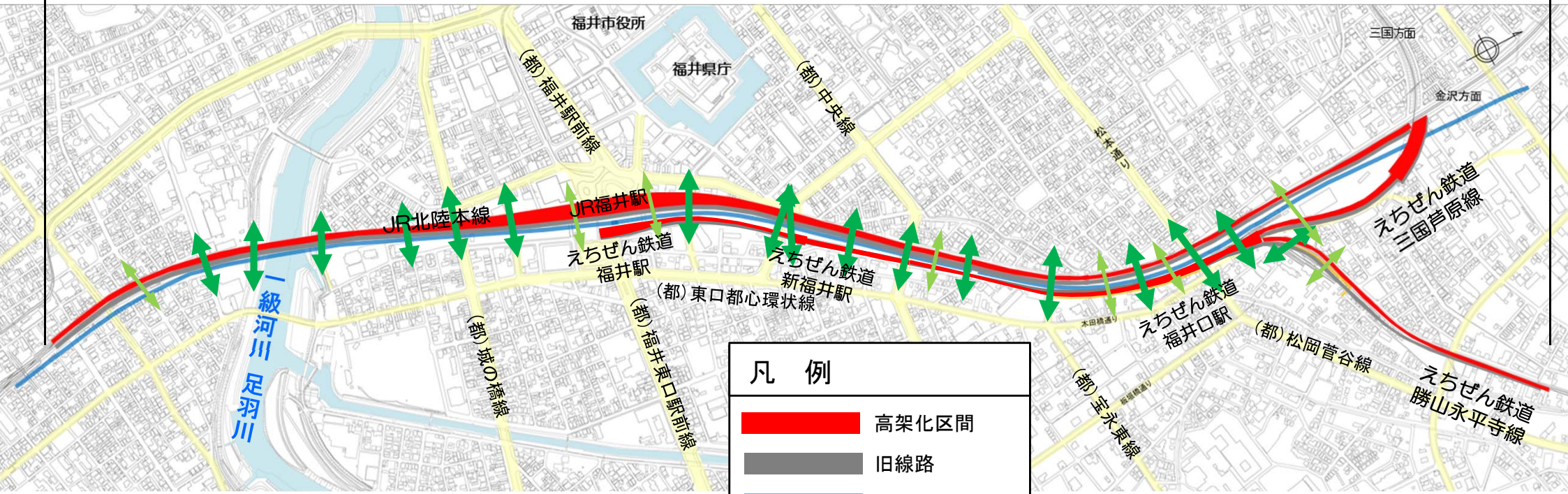
凡 例	
	都市計画区域
	市街化区域
	市街化調整区域
区 分	
	第一種低層住居専用地域 (50%)
	第二種低層住居専用地域 (50%)
	第一種中高層住居専用地域 (50%)
	第二種中高層住居専用地域 (50%)
	第一種住居地域 (50%)
	第二種住居地域 (50%)
	準住居地域 (50%)
	近隣商業地域 (50%)
	商業地域 (50%)
	準工業地域 (50%)
	工業地域 (50%)
	工業専用地域 (50%)
	容積率境界
	防火地域
	準防火地域
	風致地区
	駐車場整備地区
	高度利用地区
	近隣商業地域 特別用途地区 (大規模集客施設立地制限地区)
	地区計画区域
	地区計画区域 再開発等促進区
	震災復興土地地区 調整施行地区
	土地地区 整理施行地区
	市街地再開発事業施行区域
都市計画道路	
	1 自動車専用道路
	2 幹線街道に相当するもの
	3 区 間 道
	4 幹線街路(口) 歩行者専用道路に相当するもの
	5 幹線街路(口) 都市モータールーに相当するもの
	6 幅員40M以上のもの
	7 幅員30M以上40M未満のもの
	8 幅員22M以上30M未満のもの
	9 幅員16M以上22M未満のもの
	10 幅員12M以上16M未満のもの
	11 幅員8M以上12M未満のもの
	12 幅員8M未満のもの
施 設	
	都市高速鉄道
	駐 車 場
	公 園 ・ 緑 地
	基 礎
	公共下水道ポンプ場
	下水処理場
	ごみ焼却場・市場・火葬場
	北陸新幹線予定ルート

1 : 25,000



平面図

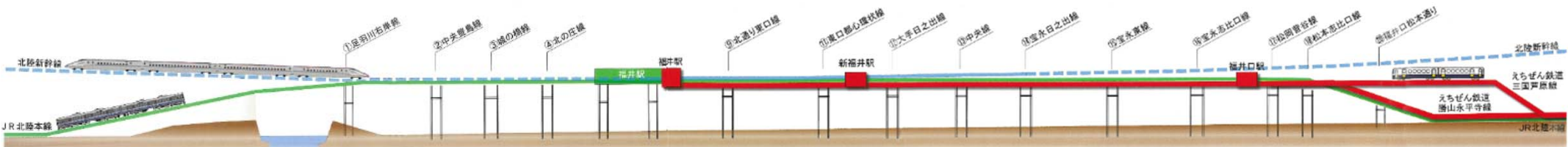
福井駅付近連続立体交差事業 総延長 L=約6.3km



凡 例

<span style="display:inline-block; width:20px; height:10px; background-color:red;"></span>	高架化区間
<span style="display:inline-block; width:20px; height:10px; background-color:gray;"></span>	旧線路
<span style="display:inline-block; width:20px; height:10px; background-color:blue;"></span>	北陸新幹線
<span style="display:inline-block; width:20px; height:10px; background-color:yellow;"></span>	既設主要道路
<span style="display:inline-block; width:20px; height:10px; background-color:lightgreen; border-left:1px solid green; border-right:1px solid green;"></span>	交差道路(車道)
<span style="display:inline-block; width:20px; height:10px; background-color:lightgreen; border-left:1px dashed green; border-right:1px dashed green;"></span>	交差道路(歩道)

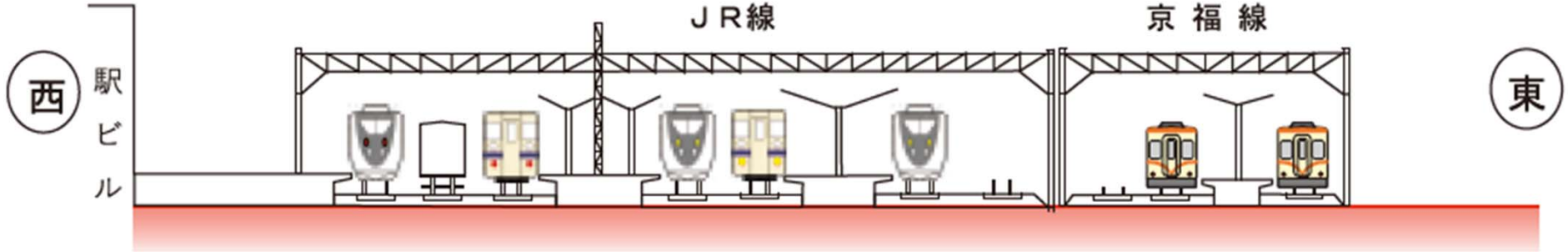
縦断面図



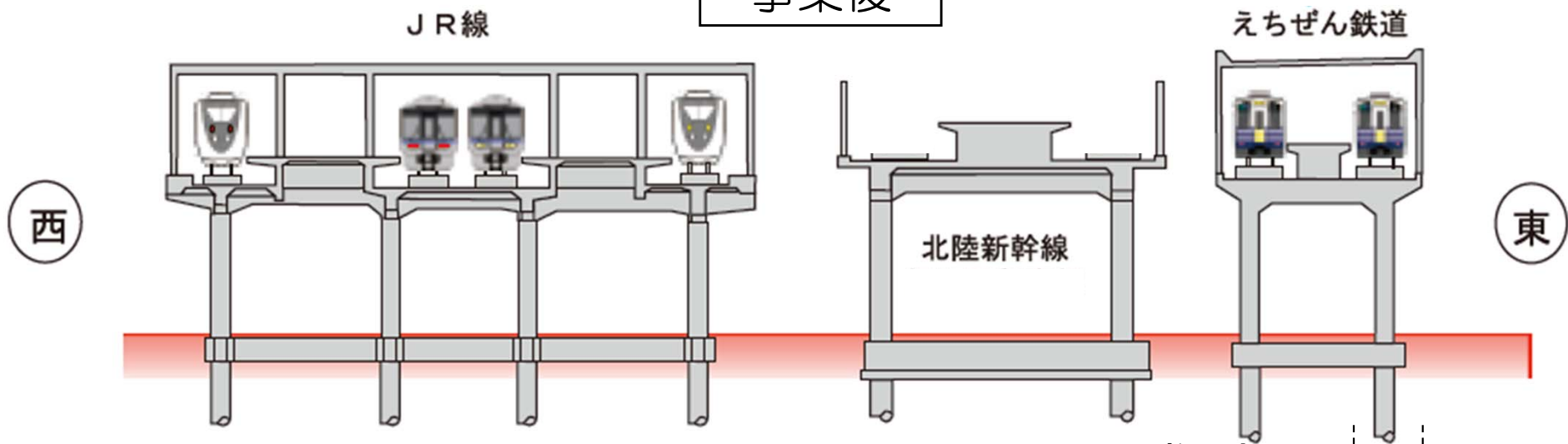
一級河川 足羽川

横断図

事業前



事業後



土地区画整理事業の換地により用地を確保





# 路線全体の進捗状況

福井駅付近連続立体交差事業 総延長 L=約6.3km

JR北陸本線 L=約3.3km 今回応募区間 平成17年4月18日供用開始

えちぜん鉄道 三国芦原線 L=約0.7km  
今回応募区間 平成30年6月24日供用開始



凡 例	
	今回応募区間
	北陸新幹線
	撤去踏切
	既設主要道路

えちぜん鉄道 勝山永平寺線 L=約2.3km  
今回応募区間 平成30年6月24日供用開始

# 事業前写真

福井駅部



(都)東口都心環状線



(都)松岡菅谷線

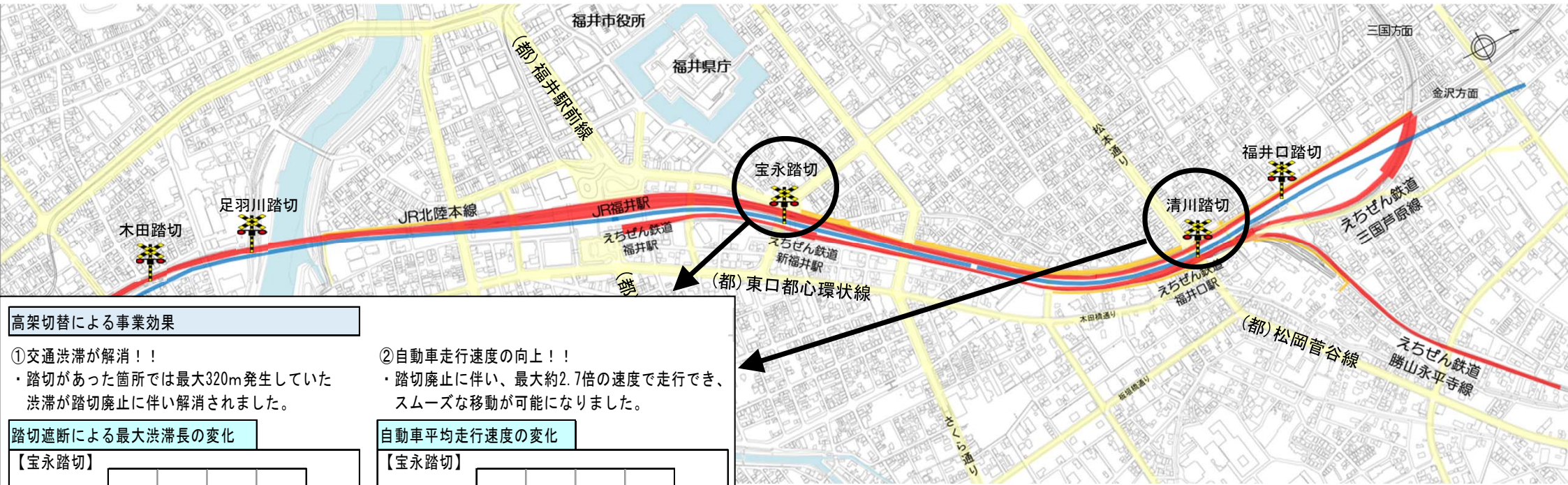


# 事業後写真

(福井駅付近連続立体交差事業)



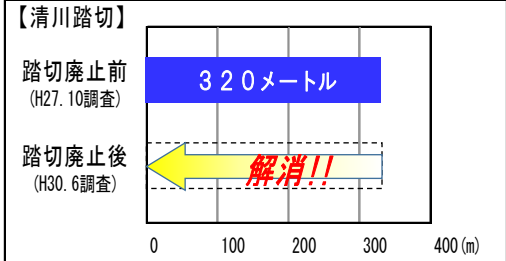
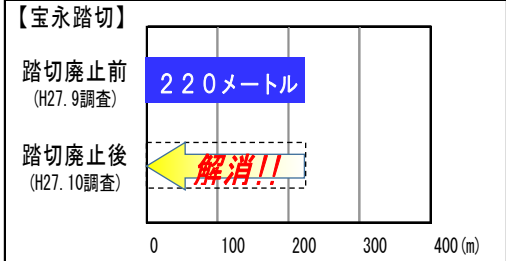
# 事業効果アピール資料



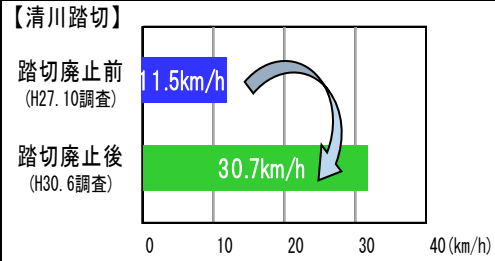
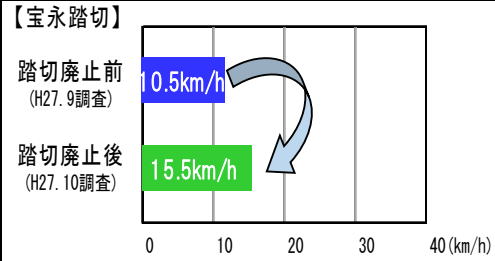
## 高架切替による事業効果

- ①交通渋滞が解消!!
  - ・踏切があった箇所では最大320m発生していた渋滞が踏切廃止に伴い解消されました。
- ②自動車走行速度の向上!!
  - ・踏切廃止に伴い、最大約2.7倍の速度で走行でき、スムーズな移動が可能になりました。

## 踏切遮断による最大渋滞長の変化



## 自動車平均走行速度の変化



### 【利用者の声】

- 警察・消防関係者
  - ・スムーズに走行でき、緊急出動時の時間短縮につながった
- バス会社
  - ・朝夕を中心に、路線バスの移動時間が2～3分短縮され、定時性の向上につながった。
- 沿線住民
  - ・通勤利用時など、走行しやすくなった。



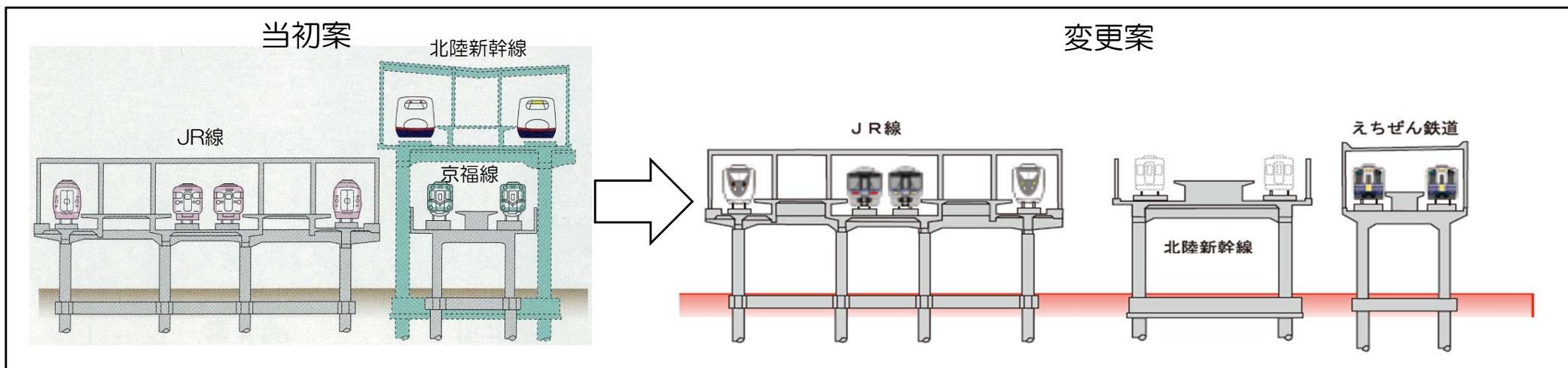
## 苦労や工夫等アピール資料1

### ○北陸新幹線の工事認可に伴う事業計画の変更

福井駅付近連続立体交差事業は、昭和57年に当時の鉄道建設公団が北陸新幹線の福井県内のルートを示したことから福井駅周辺整備の機運が高まり事業化に向かった。しかし、当時は北陸新幹線の工事实施計画が認可されていなかったため、北陸新幹線はえちぜん鉄道（当時は京福電鉄）をまたぐ3階部分に整備されることを想定してえちぜん鉄道の高架化を計画した。

しかし、平成17年に福井駅部800m区間において、北陸新幹線の工事实施計画が2階建高架構造で先行認可されたことにより、当初の事業計画を見直す必要が生じた。計画の見直しにおいては、現行案である東側単独高架案の他、えちぜん鉄道の在来線高架乗入れやLRT化案など様々な案が検討された。その背景には、事業用地の確保をはじめとする多くの課題があった。

最終的には、えちぜん鉄道の単線化（駅部は島式）や区画整理事業における仮換地指定の見直しによる事業用地確保の見通しがたち、平成24年に現在の東側単独高架案で進める方針が決定した。



## 苦労や工夫等アピール資料2

### ○新幹線高架を利用した整備効果の早期発現

えちぜん鉄道の高架化において、関係機関との協議により、平成21年2月に先行して完成した北陸新幹線の福井駅部800m区間をえちぜん鉄道の仮線に利用することが可能となった。

新幹線高架の利用により、当区間ではえちぜん鉄道の仮線用地が不要となり、また、本来は本線切替後となる踏切除却および交差道路整備を3年前倒して完了する事ができ、早期の効果発現が可能となった。

このように、地域鉄道が新幹線高架橋を利用して仮線を運行したのは全国初の試みである。



なお、北陸新幹線の先行整備は高架橋のみであり、軌道等は未整備であったため、北陸新幹線高架橋にえちぜん鉄道用の軌道を整備することにより、仮線としての利用が可能であった。

(本線切替後は仮駅舎や軌道、電気設備等を撤去している。)

受賞歴・報道資料

平成17年4月19日福井新聞 JR北陸本線 高架切替

### 新 福井駅 が開業

## 中心街広がる未来像

「福井が変わる予感」 「活気消さぬよう」 地元商店街 「踏切渋滞減り楽に」 沿線住民

「駅が楽しい」 プリズム福井 2万人が来店

6商店街 記念フェスタ 初の連続、24日まで多彩に

喜びと期待乗せ





2005年4月19日(火曜日) 福井新聞

平成30年6月25日福井新聞 えちぜん鉄道 高架切替

# えち鉄高架切り替え

## 新3駅舎供用開始

### 連続立交ほぼ完了

#### 福井・中心部



えちぜん鉄道勝山永平寺線と三國原線の福井市中心部の運行が24日、北陸新幹線福井駅舎を利用した仮線から専用高架に切り替わり、高架上の福井と新福井、福井口の三つの新しい駅舎の供用が始まった。通称松本通りの福井口踏切が廃止され、市街地の東西交通の通し方がさらに良くなった。1991年度から呉が取り組んでいた福井駅付近連続立体交差事業はこれで、えち鉄の仮線撤去や一部の交差道路整備などを除いてほぼ終え、2019年度に完了する予定。

(大谷貴洋) 【24面に関連記事】

専用高架の延長は、勝山水平寺線約2・3キロと三國原線約0・7キロの計約3キロ。新幹線福井駅舎の仮線にないでいた線路を専用高架側に切り替える作業は、23日午後10時ごろから24日午前5時ごろまで約3000人態勢で慎重に行われ、午前6時15分福井発、国産行きの始発から専用高架で走行が始まった。日曜とあつて、鉄道ファンが大勢駆け付け、専用高架から見える車窓の風景を楽しんだり、呉産スギ材をふんだんに使った新しい福井駅舎の魅力に触れたりしていた。

西川一蔵知事は成式典で「福井国体・全国障害者スポーツ大会期間中、福井駅周辺に県内外の多くの選手が訪れる。福井駅周辺で長年進めてきた事業が順調に完了し、新しい県都の姿をお迎えできることを大変喜ばしく思っている」とあいさつした。山崎たスロープや橋脚、廃止された福井口踏切などを撤去後、秋から新幹線工事に移る。

正昭前参院議長、山本文雄県会議長らが祝辞を述べた。福井駅付近連続立体交差事業は、鉄道高架化で▽木田▽足羽川▽宝永▽清川えち鉄の福井口▽志比川の5カ所の踏切をなくし、東西交通の円滑化と市街地の一体化を図ることを目的に、呉が91年度に着手した。まず「R北陸線高架(約3・3キロ)」が05年4月に完成し、木田など1Rの踏切が除去された。その後、12年3月に新幹線高架側面にえち鉄の専用高架を整備する方針が決まり、都市計画変更などを経て15年12月に本体工事に着手した。えち鉄は高架工事期間中の運行を確保するため、15年9月から新幹線福井駅舎の約800台を間借りした。これに

24日午前7時40分ごろ、福井市日之出1丁目(棟田崇仁撮影)

受賞歴・報道資料

平成30年度 全建賞受賞

